

Financial system as a public good in an overlapping-generations economy

慶應義塾大学 塩澤修平

本稿では、価値貯蔵手段としての貨幣が存在する重複世代モデルにおいて、それと実物財との交換に際して生じる取引費用を軽減するような、ストック財ならびに公共財的な性質をもつ金融システムを考察する。そうした経済におけるパレート効率的な定常配分の条件、いわゆる Samuelson 条件が導かれ、貨幣的定常競争均衡配分においては貨幣数量説的な状況が成立するが、パレート効率の条件とは両立し得ないことが示される。また、定常ではない状態での動学的な調整過程を考察し、安定条件を導出する。

John and Pecchenino[1994]は、重複世代経済における経済成長と環境保全との関係を、環境をストック財として定式化し、論じている。本稿では、金融システムを、各期における金融システムの水準が、前期の水準と金融システム維持のためにその期に投入された実物財の量によって決定されるような、ストック変数として定式化し、各消費者の負担する取引費用が、金融システムの水準に依存するという、公共財としての性質をもつものとして捉え、重複世代モデルの枠組みにおいて分析する。

第2節では、各期に複数の消費者、実物財、価値貯蔵手段としての貨幣およびストック変数としての金融システムが存在する、離散的な時間の重複世代経済が定義される。実物財は、消費されるか、金融システムの維持に用いられるか、あるいは貨幣との交換の際の取引費用として使われる。第3節ではパレート効率的な定常配分の条件が導かれる。すなわち、各消費者の若年期の消費と老年期の消費の限界代替率が1であること、そしてその限界代替率の各世代の総和が取引費用削減のある種の限界費用に等しくならなければならないことであり、最適な公共財供給のためのいわゆる Samuelson 条件に対応している。さらに、パレート効率性の条件を満たす金融システムの水準が、人口および金融システム供給の技術的なパラメーターの関数として解かれることを示している。第4節では貨幣的競争均衡配分の条件が導かれ、パレート効率の条件とは両立し得ないことが示される。また、貨幣数量説的な状況が成立することが示される。第5節では、定常ではない状態での動学的調整過程を考察し、安定条件を導出する。各期の消費と金融システムの負担額は、前期の負担額に依存する。その関係から、金融システムの負担額について動学的経路が定式化され、定常均衡に収束するための条件が求められる。

均衡経路の動学的安定性に関するさらなる考察と、金融システムが取引費用の軽減だけでなく、リスクを負担するという役割についての考察は今後の課題としたい。

参考文献

John, A., Pecchenino, R., 1994, "An overlapping generations model of growth and the Environment", *Economic Journal* 104, 1393–1410.

John, A., Pecchenino R., Schimmelpfenning, D., Schreft, S., 1995, "Short-lived agents and the long-lived environment", *Journal of Public Economics* 58, 127–141.